

2013年2月26日

報道関係各位

大和ハウス工業株式会社  
株式会社ベネッセコーポレーション

大和ハウス工業「xevo (ジーヴォ)」×ベネッセコーポレーション「たまひよ」のコラボレーション  
**子育て層向け住まい提案 第三弾**  
**『HAPPY HUG III (ハッピーハグ スリー)』誕生**

大和ハウス工業株式会社(本社:大阪市、社長:大野直竹)と株式会社ベネッセコーポレーション(本社:岡山市、社長:福島保、以下:ベネッセ)は、大和ハウス工業の戸建住宅商品「xevo (ジーヴォ)」とベネッセの妊娠・出産・育児ブランドの「たまひよ」とのコラボレーションによる、子育て層向け住まい提案の第三弾となる『HAPPY HUG III』(以下:ハッピーハグIII)をご提案します。

両社は家族の幸せを育む住まいを実現するため、共同調査の結果から導き出した「コミュニケーション」と「成長」をキーワードに、様々なアイデアを形にし、2008年4月から『ハッピーハグ』を、2009年7月からは『ハッピーハグII』を提案しています。

今回『ハッピーハグIII』の開発に当たっては、ベネッセが主催する日本最大級の女性限定・会員制のコミュニティサイト「ウイメンズパーク」、「みんなのロコミランキング」内で、キッチンやダイニング、タタミスペース等の提案に関する人気ランキング調査を実施しました。その結果得られた合計20,803人のリアルな意見を参考に、子どもだけではなく、家族みんなの笑顔が生まれる工夫を盛り込みました。



●コンセプト

『子どもすくすく ママ・パパ イキイキ』

●ポイント

1. どこにいても見渡せるオープンスペース “ハッピーキッチン”
2. 玄関アプローチと庭を兼ねた緑ある屋外スペース “シーズンアプローチ”
3. 子どもの成長に応じて自由に間取りを変えられる空間 “フレックスステージ”

## <ハッピーハグⅢの開発背景>

2008年4月に開発した『ハッピーハグ』では、従来からある一般的な間取りの考え方にとらわれずに、家族の「コミュニケーション」と「成長」をキーワードに、新たに創り出した空間を取り入れました。また、2009年に開発した『ハッピーハグⅡ』では、日本の昔の住まいや暮らしが本来持っていた「きずな」と「はぐくみ」の仕掛けやルール・マナーに着目し、そこで培われた日本の子育ての良さをプランに盛り込みました。

今回開発した『ハッピーハグⅢ』では、従来からのキーワードである「コミュニケーション」と「成長」に追加して新たに「ママ」に注目しました。子どもの成長だけでなく、子どもの成長を一番に思うママ・パパがイキイキすることが、現代の子育てには不可欠であり、家族みんなの笑顔につながると考えました。子どもがイキイキ健やかに育つことはもちろん、ママも、そしてパパもイキイキする提案を追加し、子育てと子どもの健やかな成長を応援します。

また、ターゲットである子育て層をめぐる環境の変化にも着目しました。一次取得層の平均世帯年収の伸び悩み、住宅取得費の負担増による延床面積の縮小傾向が続く中、延床面積の小さいプランでも満足いく子育て環境を提案します。

## <ベネッセの「たまひよ」について>

ベネッセの展開する、妊娠・出産・育児期の女性とその家族を対象にした生活領域の代表的な事業ブランドである「たまひよ」は、93年の創刊以来20年間トップの発行部数を維持する雑誌を中心にWEBや通販などのサービスを提供しています。

この「たまひよ」の読者世代の大きな課題のひとつに「住まい」があります。「たまひよ」は、ハッピーハグシリーズの住まい提案づくりにおいて、ベネッセ社内のリソースを活用したマーケティング面から協力することで、読者世代の課題解決に貢献したいと考えています。

## <『ハッピーハグⅢ』の内容>

### 1. どこにいても見渡せるオープンスペース“ハッピーキッチン”

キッチンから、タタミスペースとダイニングを見渡せ、家族の様子が見守りやすい開放的な空間として“ハッピーキッチン”を提案します。ダイニング・タタミスペース・キッチンが隣接する空間は、家事をしながらでも子どもの様子を見守ることができ、子どもは安心して遊ぶことができます。

また、ダイニングには掃き出し窓や吹抜けを設置して開放的な空間とすることで、友人を招いての“おうちカフェ”を実現できる、ママに人気の「カフェダイニング」を提案します。

### (1) 見守りタタミスペース

キッチンに隣接させたタタミスペースは、キッチンに立つと子どもと視線が合うように、床から40cmほど\*1あげた高さに設定しています。これによって見渡せるようになり、コミュニケーションをとりやすくなっています。

また、押入れやタタミスペース下部のステップアップフロア収納を設け、子どものおもちゃの収納場所を作ることで、子どもにも自然と片付けの習慣が身につきます。

\*1. フロアと段差なくつなぐ仕様も選択可能です。



### (2) カフェダイニング

大きな掃き出し窓や吹抜けを設けた「カフェダイニング」は、家族だけでなく、友人を招いて、自宅でカフェのようにくつろぐことができる居心地のよい空間です。

ママ友達との団らんは、ママだけでなく一緒にいる子ども同士のコミュニケーションも促進し、社交性と思いやりの心を育てます。



## 2. 玄関アプローチと庭を兼ねた緑ある屋外スペース “シーズンアプローチ”

玄関アプローチと庭を兼用した、室内から目が届く緑あふれる子どもの外遊びスペース“シーズンアプローチ”を提案します。道路からの視線に配慮した屋根のある屋外空間なので直射日光が差し込みにくく、親は室内から見守りながら、子どもは外遊びができるやさしい空間です。

また、“シーズンアプローチ”では、新たに設定した「シーズンフック」を使ってプランターや園芸用ネットを吊り下げ、外部からの目隠しに利用できます。また、“シーズンアプローチ”内にミニ菜園を作ることで、子どもが自分で育てたものを食べ、食について考える習慣や、食についての様々な知識を身につけることができ、食育につながります。



“シーズンアプローチ”

### 3. 子どもの成長に応じて自由に間取りを変えられる空間“フレックスステージ”

寝室・子ども部屋では、子どもの年齢・成長に合わせて、間取りをリフォームなしで自由に変化させることができる“フレックスステージ”を提案します。

大容量の収納を兼ねた可動式間仕切り「リンクストレージ」は、上下を分割したり、別の部屋に移動させたり、間仕切りとして固定したりすることができ、ライフスタイルに合わせた間取りの変更をいつでも可能にします。

子どもが小さいうちは部屋を区切らず、主寝室で就寝した子どもを見守りながら夫婦の時間を過ごすことができるリラックスリビングを設け、子どもの成長に合わせて、主寝室と緩やかに仕切ったプレ子ども室、完全に分離した個室へと変化させることができます。



“フレックスステージ”

#### ●子どもの成長にあわせた間取りの変化

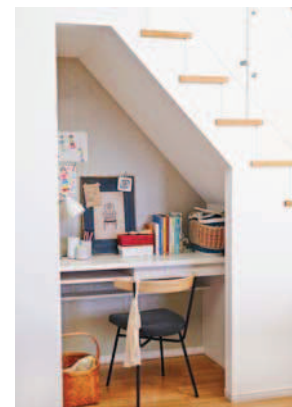
ベビー・キッズ期 (0～6 歳)	ジュニア期 (7～12 歳)	ティーンズ期 (13～18 歳)

### 4. 子育てを支援する住宅のインフラ・アイテム

#### (1) 家事軽減

家族のコミュニケーションを高めるため、家事スペースはコンパクトで機能的なつくりを目指しました。また、“ハッピーキッチン”では、パソコンを使った調べ物や子どもの勉強スペースにも使える「ママコーナー」を提案します。

家族とのコミュニケーションをとりながらも、機能的に家事をできる工夫をプランニングの中に盛り込んでいます。





## (2) 安全・安心

『ハッピーハグⅢ』では、子どもの安全・安心に配慮したアイテムを数多く採用しています。

指が挟まりにくいように、すき間を極力なくした「フィンガーセーフドア」、子どもも手が届く位置にスイッチを設置した「ファミリースイッチ」、足をぶつけても危険が少ない形状とした「R出隅」など安全・安心に配慮したアイテムが、子どもだけでなく家族みんなの幸せをサポートします。



フィンガーセーフドア



ファミリースイッチ



R出隅

## 5. 『ハッピーハグⅢ』全国一斉見学会

2013年3月1日(金)から31日(日)まで、全国24ヶ所のモデルハウス<sup>※2</sup>において『ハッピーハグⅢ』の全国一斉見学会を行います。各モデルハウスでは、建物を自由にご覧頂くことができ、“ハッピーキッチン” “シーズンアプローチ” “フレックスステージ”を実際に体感していただくことができます。

※2. 実棟により一部搭載されていない間取りがあります。

お客様お問合せ先：大和ハウス工業株式会社 コンタクトセンター

フリーダイヤル：0120-590-956 (平日 9:00～13:00、14:00～18:00)

当社サイト URL：<http://www.daiwahouse.co.jp/jutaku/lifestyle/happyhug/3/index.html>

以 上

お問い合わせ先		
大和ハウス工業 東京広報グループ	03	(5214) 2112
大和ハウス工業 広報企画室	06	(6342) 1381
ベネッセコーポレーション 広報部	042	(356) 0657



『ハッピーハグⅢ』 “ハッピーキッチン”

●モデルプラン（東西入り玄関プラン：1階-52.89㎡ 2階 48.02㎡ TOTAL 100.91㎡）

